

「7対1入院基本料」の承認

平成19年6月より、「特定機能病院入院基本料 一般病棟 7対1入院基本料」が承認されました。今回の承認により、これまで以上に手厚い看護体制を実施できるようになったとともに、病院が受け取る診療報酬の加算にもつながら、附属病院収益も前年度に比べ増加しました。



外部資金の受入の増加

受託研究・寄附金等収益  
**18億円**  
(対前年度)

研究成果の公表（「東北大学イノベーションフェア2007in仙台」の開催等）や協定の締結など、積極的に産学官の連携協力に取り組んでおり、外部資金の受入が増加しています。

特に、受託研究の受入が増加しており、前年度に引き続いて受託研究・寄附金等収益も増加しました。

また、今年度はグローバルCOEプログラム、世界トップレベル国際研究拠点形成促進プログラム等の補助金の受入が増加し、補助金等収益も前年度に比べ大幅に増加しました。



東北大学 創立100周年記念事業

東北大学は、明治40年に創立され、平成19年に100周年を迎えました。これを記念して、新たな飛躍の画期とするために、「東北大学基金」の創設、記念建造物の設置、百年史の刊行、催事（式典等）などの100周年記念事業が行われました。



東北大学 100周年記念式典（平成19年8月27日）

東北大学 財務レポート2008（リーフレット版）

お問い合わせ 東北大学財務部財務決算室  
〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2丁目1-1

URL <http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kessan/zaimu/zaimu.html>

東北大学 財務レポート2008

平成19事業年度  
2007年4月1日  
2008年3月31日

TOHOKU UNIVERSITY Financial Report 2008

- 運営費交付金に対する係数による一律削減などの厳しい環境の中、積極的な外部資金の獲得や附属病院収益の増等により業務活動が活発化し、前年度に比べ費用で25億円、収益で44億円上回る決算となりました。
- その一方で総人件費抑制策などの国の施策に従い業務運営の効率化にも取り組み、計画的な予算執行と適切な業務運営を行いました。その結果として42億円の利益を計上し、繰越金(目的積立金申請額)は30億円となりました。

(単位：億円)

財務諸表	科目	平成17年度	平成18年度	平成19年度
貸借対照表	資産	3,358	3,336	3,432
	負債	1,380	1,412	1,471
	純資産	1,978	1,923	1,961
損益計算書	費用	1,058	1,098	1,124
	(内 経常費用)	(1,057)	(1,093)	(1,122)
	収益	1,078	1,121	1,165
	(内 経常利益)	(1,077)	(1,118)	(1,162)
	目的積立金取崩額	1	-	0
大学の運営状況	当期総損益	21	22	42
	目的積立金承認(申請)額	21	19	(30)
	キャッシュ・フロー計算書			
大学の資金の流れ	業務活動	122	144	168
	投資活動	▲103	▲190	▲126
	財務活動	53	▲37	▲49
	資金期首残高	217	289	205
	資金期末残高	289	205	198
国立大学法人等業務実施コスト計算書	実施コスト	690	669	635
大学の収支状況	収入	1,301	1,144	1,261
	支出	1,252	1,137	1,177
	収支	48	6	83



## キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	平成19年度	平成18年度
<b>I 業務活動によるキャッシュ・フロー</b>	16,875	14,420
原材料、商品又はサービスの購入による支出 人件費支出 運営費交付金収入 授業料・入学金等収入 等		
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	▲12,696	▲19,024
定期預金の設定による支出 有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出 施設費による収入 等		
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	▲4,975	▲3,776
長期借入による収入 国立大学財務・経営センター債務負担金の返済による支出 リース債務の返済による支出 等		
<b>IV 資金に係る換算差額</b>	—	—
<b>V 資金増加額</b>	▲796	▲8,380
<b>VI 資金期首残高</b>	20,597	28,978
<b>VII 資金期末残高</b>	19,801	20,597

キャッシュ・フロー計算書では資金(キャッシュ)の流れ(フロー)に焦点を当てて、業務活動・将来への投資・資金の調達の各々の目的別にどれだけ資金を投入したか(あるいは獲得したか)を表示します。

## 貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	平成19年度	平成18年度	科 目	平成19年度	平成18年度
<b>資産の部</b>	343,286	333,626	<b>負債の部</b>	147,131	141,257
(固定資産)			(固定負債)		
土地	135,580	135,557	資産見返負債	48,742	47,842
建物等	101,269	101,929	借入金	48,649	50,227
機械備品	37,622	33,221	長期未払金等	11,398	8,292
図書・美術品	25,154	24,912	(流動負債)		
建設仮勘定	1,639	995	運営費交付金債務	2,950	2,540
その他	1,010	2,467	寄附金債務等	10,753	9,636
(流動資産)			借入金	3,991	3,745
現金・預金	32,101	28,397	未払金	18,117	17,126
未収入金	6,920	5,563	その他	2,528	1,847
(未収学生納付金収入 (未収附属病院収入 (その他未収入金	101 4,919 1,899	100 4,469 993	<b>純資産の部</b>	196,155	192,369
その他	1,989	583	資本金	180,227	180,227
			資本剰余金	4,930	5,120
			利益剰余金	10,997	7,021
			(目的積立金	4,786	3,025
			(積立金	1,998	1,717
			●(当期末処分利益	4,212	2,278

貸借対照表は決算日における本学の全ての資産、負債及び純資産を記載することによりその財政状態を明らかにすることを目的としています。

## 損益計算書

(単位:百万円)

科 目	平成19年度	平成18年度	科 目	平成19年度	平成18年度
<b>経常費用</b>			<b>経常収益</b>		
教育経費	3,329	3,008	運営費交付金収益	47,791	49,554
研究経費	18,911	18,021	授業料・入学金等収益	10,943	10,965
診療経費	17,869	17,891	附属病院収益	27,002	24,350
教育研究支援経費	2,436	2,454	受託研究・寄附金等収益	16,429	14,549
受託研究費等	10,372	9,219	補助金等収益	2,316	573
人件費	52,838	52,388	施設費収益	998	887
一般管理費	5,055	5,061	資産見返負債戻入	6,993	6,731
財務費用	1,351	1,305	その他	3,813	4,270
その他	49	9	<b>経常費用 合計</b>	112,216	109,361
<b>経常費用 合計</b>	112,216	109,361	<b>経常収益 合計</b>	116,288	111,884
臨時損失	192	484	臨時利益	257	239
<b>当期総利益</b>	4,212	2,278	目的積立金取崩額	74	—

損益計算書は事業年度内に本学が実施した事業等により発生したすべての費用と収益を記載することにより、その運営状態を明らかにしています。

## 国立大学法人等業務実施コスト計算書

(単位:百万円)

科 目	平成19年度	平成18年度
<b>I 業務費用</b>	53,741	55,831
損益計算書上の費用 (控除) 自己収入等 授業料収益・附属病院収益 等		
<b>II 損益外減価償却等相当額</b>	6,198	8,463
<b>III 損益外減損損失相当額</b>	67	236
<b>IV 引当外賞与増加見積額</b>	▲33	—
<b>V 引当外退職給付増加見積額</b>	857	▲1,034
<b>VI 機会費用</b>	2,726	3,496
国又は地方公共団体の無償又は減額された使用料による賃借取引の機会費用 等		
<b>VII (控除) 国庫納付額</b>	—	—
<b>VIII 国立大学法人等業務実施コスト</b>	63,557	66,993

業務実施コスト計算書では国立大学法人を運営するに当たっての国民負担額を示します。VIIIに示された金額が国民の皆様の本学に対する負担額を表します。

## 利益の処分に関する書類(案)

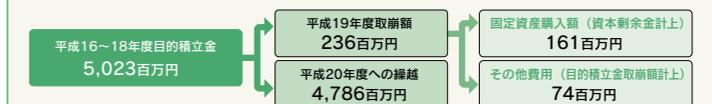
(単位:百万円)

科 目	平成19年度	平成18年度
<b>I 当期末処分利益</b>		
● 当期総利益	4,212	2,278
<b>II 利益処分額</b>		
積立金	1,144	280
目的積立金	3,067	1,997

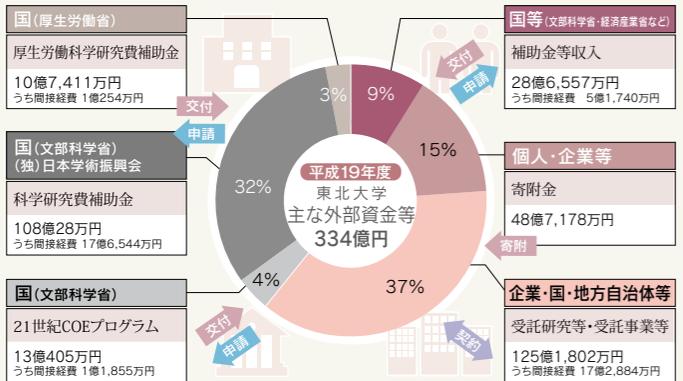
利益の処分に関する書類は、当期末処分利益の処分の内容を明らかにするものです。

## 平成19年度における目的積立金の取り崩しについて

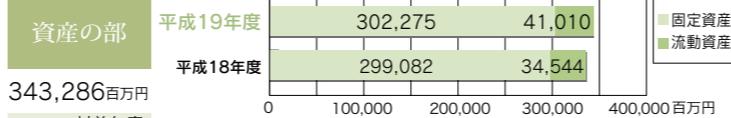
平成18年度当期純利益2,278百万円のうち、1,997百万円については業務の用に供することが可能な額として文部科学大臣より承認され、目的積立金は前年度までの繰り越し3,025百万円と合わせて5,023百万円となりました。平成19年度は、このうちの236百万円を使用し、川内キャンパスの整備を実施するなど、教育研究の質の向上のために有効活用しました。



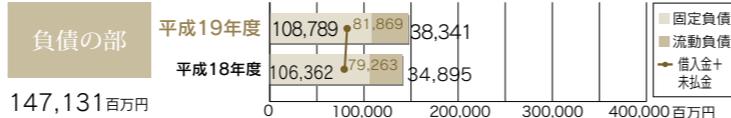
## 外部資金



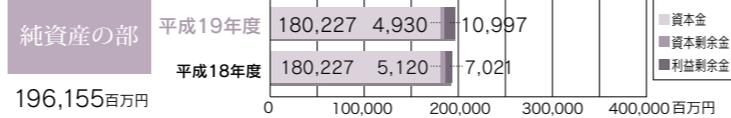
※研究者個人に交付される科学研究費補助金、厚生労働科学研究費補助金、21世紀COEプログラムなどの直接経費は預り金(貸借対照表の流動負債のその他に計上)として処理され、損益計算書上の費用、収益には含まれません。また、間接経費については研究関連収入(損益計算書の経常収益のその他に計上)として本学の収益となります。



(片平)インテグレーション・ラゴ棟の竣工、各キャンパスの耐震改修工事、教育・研究・診療用の機械備品等の更新等により増加しています。



リース資産の取得増加に伴う未払金(リース債務)の増加や外部資金受入の増加に伴う寄附金債務等(外部資金残高)の増加により、前年度に比べ増加しています。



現物出資資産等の減価償却により資本剰余金が減少している一方で、当期末処分利益の発生により利益剰余金が増加しており、純資産総額は増加しています。

## 経常費用・経常収益の構成内訳

